

令和4年度国有林野事業業務研究発表会 発表課題一覧

《森林技術部門》

第二会場：農林水産省 本館4階 第2特別会議室

No.	発表時間	発表課題名	発表者			概要
			森林管理局	森林管理署等(元所属)	氏名	
1	9:55 ～ 10:15	盛土地格による造林コスト縮減に向けた取組(第2報)	北海道	十勝東部森林管理署(檜山森林管理署)	神田 健彦	戦後植栽された多くの人工林が主伐期・再造林を向かい、造林経費の縮減が急務である。このため、平成30年度にコスト削減を目指し実施した盛土地格において、3年後の調査と検証を実施したので報告する。
2	10:15 ～ 10:35	スマートフォン地図アプリの請負事業体向けマニュアルの作成と普及活動	東北	岩手南部森林管理署遠野支署	新井 潤子	国有林野事業に携わる事業体が国有林GISデータをさらに活用できるよう、複数のスマホ地図アプリを比較・検証の後、国有林野事業と現時点で最も親和性が高いアプリを選定し、操作マニュアルの作成や普及活動を実施した。
					齊藤 謙二	
					小林 明仁	
3	10:35 ～ 10:55	天然力を活用した再造林について ～金沢山ヒノキ育成複層林モデル林～	中部	南信森林管理署 森林総合研究所(元 信州大学農学部)	奥山 綾菜 大塚 大	信州大学農学部と連携して天然更新施策に関する取組を行っている金沢山ヒノキ育成複層林モデル林において、令和3年度に上層木伐採を実施した。伐採後の現地調査から再造林について考察し発表。
4	10:55 ～ 11:15	木曽ヒノキ天然林における種子調査中間報告 ～温帯性針葉樹林の保存・復元に向けて～	中部	木曽森林管理署	三宅 悠平 内藤 貴幸	平成17年より天然林伐採跡地において種子トラップを設置し、木曽ヒノキ・サワラ等の種子の豊凶調査を行ってきた。令和元年度に豊作があったことから蓄積した調査データについて考察した。
5	11:15 ～ 11:35	鍛冶屋又国有林におけるヒノキ低コスト造林試験 ～10年生時の広葉樹の除伐が植栽木の成長に及ぼす効果～	近畿中国	三重森林管理署 三重県林業研究所	早瀬 亙 島田 博匡	植栽密度別に下刈り有無の条件の異なる試験区を設置した低コスト造林試験を実施しており、10年生時の広葉樹の除伐完了後2年が経過し、育林経費とそれ毎に植栽木の成長に及ぼす効果を検証をしたので発表する。
6	11:35 ～ 11:55	治山事業におけるICT活用の取組について ～遠隔臨場の実施～	近畿中国	奈良森林管理事務所(元 兵庫森林管理署) 計画保全部治山課	山本 康二 山本 雅志	工事現場等において、監督職員と受注者がウェアラブルカメラ等による映像と音声の双方向通信を使用し、施工途中の段階確認や材料検査、立会等を行う「遠隔臨場」による公共工事の業務効率化等について発表する。
【昼休み、審査委員会 60分】 11:55 ～ 13:05						
7	13:10 ～ 13:30	土佐備長炭の原木確保に向けたウバメガシ実生苗による更新の取組	四国	安芸森林管理署	柳園 和男	地元自治体からの要請を受け、土佐備長炭の原木不足の解消に向けたウバメガシ実生苗による施業方法の確立を目指し、署職員による育苗に取り組みとともに、植栽後の生育状況調査したので報告する。
8	13:30 ～ 13:50	点状複層林における上木伐採に係る下木への影響等について	四国	四万十森林管理署(元 四国森林管理局 計画保全部 計画課) 嶺北森林管理署	西坂 志帆 北川 憲太郎	点状複層林(単層林を伐採率40～50%程度で点状に抜き伐り後、植栽した複層林)での今後の施業方法を検討するため、上木を列状に伐採・搬出した場合の下木の損傷具合や光環境の変化について調査・考察を行ったので報告する。
9	13:50 ～ 14:10	現場業務の効率化	九州	宮崎森林管理署都城支署 屋久島森林管理署(元 宮崎森林管理署都城支署)	坂本 徹也 石綿 深志	職員減少の中で現場業務の改善・効率化が喫緊の課題。今回は、デジタル機器やオープンデータの活用により、森林の「見える化」を進めると同時に、機器を扱う人材が増えるよう手法の普及に取り組みました。

《森林ふれあい・地域連携部門》

第一会場：農林水産省 北別館8階 林野庁AB会議室

No.	発表時間	発表課題名	発表者			概要
			森林管理局	森林管理署等(元所属)	氏名	
1	9:35 ～ 9:55	楽しい！わかる！「北の森カルタ」の開発	北海道	渡島森林管理署(技術普及課) 渡島森林管理署(技術普及課)	宮本 萌樹 今野 莉緒	森林への親しみや、森林保全と林業への理解促進を目的に、「北の森カルタ」を開発した。子供用と大人用の2種類を試行し、森林環境教育教材としての効果を検証した
2	9:55 ～ 10:15	積丹地域における共同施業とストックヤードを活用した共同販売の取組について	北海道	石狩森林管理署 積丹町 北海道水源林整備事務所	末廣 雄二 横野 弘樹 佐藤 賢二	積丹町・北海道水源林整備事務所・石狩森林管理署の3者が協定を締結し、民有林と国有林を一体的事業地として推進している地域木材の有効活用・事業コストの縮減・販売価格の向上を目指した森林整備の取組を紹介する。
3	10:15 ～ 10:35	森林や林業に対する意識の変容と教育内容の検討～青森市と外ヶ浜町の小中学生を対象とした森林教室を通して～	東北	青森森林管理署	齋 つかさ	管内で実施した森林環境教育のイベントについて、参加した小中学生に対して実施前後にアンケートをとり、参加者に与えた影響を調べた。また、調査結果を基により良いイベントとなるよう教育内容を検討した。
4	10:35 ～ 10:55	合板用材としての早生樹(テダマツ・スラッシュマツ等)の可能性について	関東	天竜森林管理署(元 静岡岡森林管理署) 中日本合板工業組合	宝田 和将 浅井 勇詞	合板用の原木の安定供給に向けて、従来のスギ、ヒノキだけではなく、新たな選択枝として戦後植栽されたテダマツなどの早生樹の概要等について文献調査するとともに、物性の試験を行った結果を報告する。
5	10:55 ～ 11:15	より有効な「美しい森」の利用を目指して(景観の情報発信と歩道の利用に係るアンケート調査の実施)	関東	日光森林管理署	石川 いずみ 三井 華 海藤 さつき	環境省日光国立公園管理事務所と連携し、国立公園内の歩道で撮影した360°カメラによる写真をGooglemapのストリートビューにアップして情報発信するとともに、来訪者へのアンケート調査を行った結果を報告する。
6	11:15 ～ 11:35	「檜皮の森」森林整備協定の取組について	中部	木曽森林管理署南木曽支署 公益社団法人全国社寺等屋根工事技術保存会	齋藤 由晃 河村 雅史	平成14年度から実施している「檜皮の森」森林整備協定の取組について、今年度で20年目を迎えたことから実績を取りまとめるとともに、皮を剥いたことにより立木に与えた影響について調査を行ったことから報告する。
7	11:35 ～ 11:55	「愛媛県固有種トキワバイカツツジの里帰り」への取組報告	四国	愛媛森林管理署 林野庁 林政部 木材利用課(元 愛媛森林管理署)	谷本 明夫 木村 拓真	愛媛県宇和島市津島町にのみ生育する絶滅危惧種「トキワバイカツツジ」を対象に、ジーンバンク事業の一環として関西育種場にて挿し木増殖を実施し、増殖した苗木の一部が愛媛県に譲渡(里帰り)されたことから、里帰り苗木の移植事業の取組を報告する。
【昼休み、審査委員会 60分】 11:55 ～ 12:55						
8	13:00 ～ 13:20	ハートマーク♥桜の記念植樹による地域貢献～新型コロナウイルス禍での取組～	九州	熊本森林管理署	濱田 祥吾 大瀬 敦也 塩澤 翔	「国有林の伐採跡地がハートマーク♥に見える。」と地元テレビが報じたことが時の話題となり、令和3年2月、コロナ禍のため予定した結婚式ができなかったカップル等を対象にした桜の記念植樹イベントをこの場所で開催したことから、開催に至るまでの経過と今後の取組等を報告する。

《森林保全部門》

第一会場：農林水産省 北別館8階 林野庁AB会議室

No.	発表時間	発表課題名	発表者			概要
			森林管理局	森林管理署等(元所属)	氏名	
1	13:20 ～ 13:40	クマ剥ぎ対策の効果とその可能性について	東北	東北森林管理局企画調整課 (元 置賜森林管理署)	志田 有里絵	近年、拡大傾向にあるクマ剥ぎ被害について、より経済的で効果的な対策手法の普及を目指し、対策資材の有用性を検証した。また、町、森林所有者、林業事業者等と連携し、地域一帯となって対策を進めていくために技術の普及を行った。
				置賜森林管理署	関 康春	
2	13:40 ～ 14:00	シカは2週間で忘れるという説は本当か(職員実行による有害鳥獣捕獲の取組から)	関東	利根沼田森林管理署	新井 健司	ニホンジカの捕獲について、平成26年に利根沼田猟友会と協定を締結し、平成30年度からは職員実行による捕獲を始めた。安全で効率的な捕獲に向けて、従事する職員間で情報共有を行いながら捕獲技術の研鑽に努めた取組の結果を報告する。
					中村 聖子	
					須藤 洋一	
3	13:40 ～ 14:00	動物園の屠体給餌によるシカ捕獲個体の有効活用について	関東	天竜森林管理署	上木屋 健	職員実行で捕獲したニホンジカを、隣県である愛知県東栄町の動物処理施設に搬出し、同県の豊橋総合動植物公園で肉食獣(ライオン)の餌として利用(屠体給餌)した事例を報告する。
4	14:20 ～ 14:40	ノウサギの森林被害防止のための誘引及び捕獲試験について	近畿中国	和歌山森林管理署	安田 真菜	造林地における森林被害にはシカの食害以外にノウサギの食害も確認されているが、詳しい文献等もないことから、嗜好性試験や捕獲試験を行い、新しい効果的な誘引捕獲手法について試験を行ったので発表する。
				輸出・国際局 国際経済課 (元 和歌山森林管理署)	日吉沙絵子	
				和歌山森林管理署	児玉 浩稔	
5	14:40 ～ 15:00	地形を活かしたニホンジカ防護柵設置の取組	四国	高知中部森林管理署	森下 嘉晴	ニホンジカ防護柵設置後の点検や破損箇所の補修作業に多くの労力と時間を要することが課題となっていることから、破損の主な原因である野生動物の絡まりや落石・土砂の堆積などを考慮した施工方法を検討したので報告する。
					萩野 伸二	
6	15:00 ～ 15:20	「民国連携に向けたシカ捕獲圧の強化について	九州	大分西部森林管理署	渡邊 昭伍	今回職員実行によるシカ捕獲はIoTを利用した長距離無線捕獲システム「ほかいバト」を導入した。そのことで、罠の位置と捕獲状況が一目で確認でき、設置した罠の見回りを行わなくてもよくなり、通常業務を行う時間が出来た。
					川原 博	